

楽団紹介

アンサンブルポニーかつしか 生い立ちと現状



1. 音楽の都ウィーン市と葛飾区は友好都市

葛飾区のコンサートホールの正面玄関前には、ウィーン市内のモーツアルト像を複製したブロンズ像があります。これは、昭和62年当時のウィーン市長が日本への出張中の機内で映画「男はつらいよ」を見て葛飾区に興味を持ったことがきっかけです。その後話が進展し葛飾区とウィーン市フロリズドルフ区が友好都市の関係を結んだことによるものです。おかげで、平成4年には区内にシンホニーヒルズ モーツアルトホール（大ホール）とアイリスホール（小ホール）が完成。この頃区内には演奏団体が少なく、シニア演奏団体として平成2年に私どもの団体が設立され今年で24年目を迎えます。

2. 団員の募集一苦難の道

当初団員は7～8名でスタート。その後10年間ぐらいいは団員が増えず定期演奏会も開けない状態でした。平成12年頃になって徐々に増加し現在18名、なかなか20名は超えられません。

葛飾区には新興住宅地・大規模団地が少なく23区の中でも特に人口高齢化が進んだ地区で、楽器演奏人口そのものが少ないのではと推測されます。

3. 団の現状

昨年第8回定期演奏会を開催。毎回来場者にアンケートを実施しています。それによると、ジャズ、タンゴ、ラテン、映画音楽に、人気があり次いでクラシック。抒情歌、歌謡曲は少し落ちます。

平成21年には指揮者、編曲者に、五十嵐淳先生をお迎えし毎回練習時には楽しくやっています。先生には団員の演奏希望曲を聞きそれと上記のアンケート結果を考慮して編曲をお願いしています。

今後は聴く方にとってなじみのある しかも感動を与えられるような楽しい演奏会を目標にしています。

ポニーへの入団は何かの縁があつてのことで、団員相互の親睦は大切にしたいと思います。その意味で近郊への日帰り小旅行、暑気払いを兼ねて”お遊び演奏イベント”は毎年実施。いい思い出を作っています。

<楽しい音楽活動>は、私どものモットーです！

アンサンブルポニー かつしか 会長 上原成介



コラム SE団員のための楽器知識



今回からアンサンブルに使用される楽器についての最低知識を連載します。

【1】ピアノ

〈ピアノはなぜ楽器の王様と言われるのか〉

まず第一にピアノは音域が88鍵と広いので、他の全ての楽器の音域を包含します。

第二に音の強弱が大きいので、表現も豊かで、大ホールでもグランドピアノ一台で観客を魅了する能力を備えています。音の減衰をクリアに出せるので特にピアノシモの音の流れなど美しく出せます。

第三に両手10本の指で同時に音が出せるので和音、リズムとも自由自在に表現できます。伴奏に最適です。

以上のようにピアノは音楽の3要素であるメロディ、和音、リズムを全て一台で表現できます。正に楽器の王様で、学校の音楽室には必ずグランド（平型）ピアノ又はアップライト（立式）ピアノが置いてあるわけです。

〈合奏のチューニングは何故ピアノの音を基準にするのか？〉

ピアノがアンサンブルに加われば合奏全体が非常になります。正確な音程ですからピアノの音がアンサンブルの中心になります。但しこの音律（ピッチ）の調整は他のヴァイオリンやフルートのように自由に変えられません。ピアノ調律師が1年に1回（最低）調律して決めるからです。このピッチは通常は中央部のラの音が442ヘルツになっていますが、場合によっては440であったり、調律が1年以上されなくて音が狂った場合もあります。その場合は他の楽器やチューナーで合わせ、別に電子ピアノを持ち込んだりすることも考えるべきだと思います。

〈ピアノの取扱いで特に注意すること〉

ピアノは湿気が大敵です。響板という心臓部は天然乾燥を7年間施したり人口乾燥によって含水率を10%以下に乾かしてあります。ピアノを壁に密着させたり、コーヒークップや花瓶をピアノの蓋の上に置かないよう心がけましょう。

